

令和3年6月15日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	6月上旬発生量：並 気象予報：降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病を確認次第、薬剤防除する。</li> <li>常発地では、例年6月中下旬が初発時期であるため、予防防除を行う</li> </ul>
	紋枯病	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒剤による薬剤防除は出穂20日前ごろに行う。</li> <li>出穂15日前ごろの発病株率が15%以上の場合、粉剤、水和剤で穂ばらみ後期までに薬剤防除する。</li> </ul>
	イネドロオイムシ	少	6月上旬発生量：少(-) 気象予報：降水量並	
	スクミリングガイ(ジャンボタニシ)	やや多	6月上旬発生量：やや多(+) 6月上旬被害株率：やや多(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成貝及び卵塊を捕殺する。</li> <li><u>令和元年度病害虫発生予察注意報第1号も参考にする。</u></li> </ul>
	イネクロカメムシ	並	5月予察灯誘殺数：並 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。</li> </ul>
	ヒメトビウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>縞葉枯病を媒介する。</li> <li>成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。</li> </ul>
	セジロウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月上中旬ごろに株当たり10頭以上寄生していた場合は、薬剤防除する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
スイカ	うどんこ病	多	6月上旬発生量：多（+） 気象予報：気温並か高（-） 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤防除の際は、収穫前使用日数に注意し、葉裏にも十分かかるよう、丁寧に行う。</li> <li>・ P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> </ul>
	アブラムシ類	多	6月上旬発生量：多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	
	ハダニ類	やや多	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	並	6月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧に行う。</li> </ul>
	ハダニ類	やや多	6月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	
ナシ	黒星病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被害葉、被害果は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。</li> <li>・ 加害が見られる場合は、薬剤防除する。</li> </ul>
	シンクイムシ類	やや多	5月下旬発生量：並 [発生なし] 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	
	ハマキムシ類	並	5月下旬発生量：並 5月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	
	アブラムシ類	やや少	5月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	そうか病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 発生が多い園では、梅雨期にも薬剤防除する。
	ミカンハダニ	少	5月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は、寄生葉率 30%を目安とする。
	ミカンハモグリガ	多	5月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 夏秋梢の発生する7～8月に急激に増加する。樹冠の拡大が必要な幼木や高接ぎ園では薬剤防除する。
ビワ	灰斑病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 落葉に付着した病原菌が次の発生源となるため、集めて園外に持ち出し、適切に処分する。 ・ ビワ樹と防風垣の剪定を行い通風・透光を良くする。
	カミキリムシ類	並	5月下旬発生量：並	・ クワカミキリ成虫は7～8月に多く発生するため、園内を見回り捕殺する。また、枝に咬み傷を付けて産卵するため、木づち等で卵を樹皮の上から叩いてつぶす。 ・ 今期の収穫終了後、食入した幼虫が虫糞を押し出している孔を見つけ次第、園芸用キンチョールE又は、ロビンフードで薬剤が食入部から流出するまで噴射して防除する。
果樹共通	カメムシ類	やや少	5月下旬発生量：並〔発生なし〕 5月予察灯誘殺数：並 5月フェロモントラップ誘殺数：少（-） 気象予報：気温並か高（+）	・ 防虫ネット（9mm クロスまたは4mm 以下の網目）等により、物理的な防除対策を行う。 ・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。 ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。園内外をこまめに見回り、発生を確認次第、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### スイカうどんこ病の多発生に注意

6月上旬に、スイカ生産ほ場 10 か所（富里市・芝山町）で病害虫発生予察調査を実施したところ、うどんこ病の発病株率（※）が 40.80%（平年値 0.44%）と平年値を大きく上回った（図）。

（※）発生予察調査では、わずかでも発病が認められた株はすべて「発病株」としてカウントしている。

本病は、やや乾燥気味の条件で発生しやすい。向こう1か月の気象予報（6月10日気象庁発表）では、気温は平年並か高く、降水量および日照時間はほぼ平年並とされている。

以上の状況と気象予報から、今後も多発生の傾向が続く可能性があると思われるので、注意が必要である。

#### 〈被害〉

主に葉に発生する。葉に円形に白い粉をふりかけたような症状が現れる（写真）。病勢が進むと、葉の全面が白粉に覆われたり、葉枯れを生じることもある。

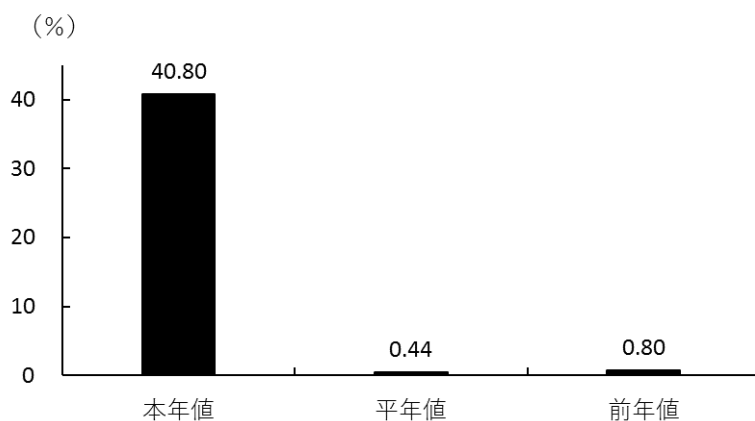


図 スイカうどんこ病の発病株率（6月上旬）



写真 スイカに発生したうどんこ病

## <防除法>

### 1 耕種的・物理的防除

- (1) トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。
- (2) 発病部位は伝染源となるため早急に取り除き、適切に処分する。

### 2 化学的防除

- (1) 病勢が進展してからの防除は困難なので、早期発見に努め、発病ごく初期から薬剤防除する。
- (2) 登録された農薬を用い、葉裏や下位葉にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRACコード（作用機構別の分類）を参考に、ローテーション散布を行う。
- (4) 薬剤防除の際は、登録内容を十分確認し、特に収穫前使用日数には注意する。
- (5) 薬剤の選定について疑問点等がある場合は、普及指導員等に相談する。

表 スイカうどんこ病の主な防除薬剤

（農薬の登録内容は令和3年6月9日現在。掲載農薬は、令和3年版農作物病害虫雑草防除指針（千葉県）から抜粋。）

薬剤名	FRAC コード※1	希釈倍数	使用時期	本剤の使用 回数※2
アフェットフロアブル	7	2,000	収穫前日まで	3回以内
イオウフロアブル	M2	500	—	—
サンクリスタル乳剤		300~600	収穫前日まで	—
シグナム WDG	11+7	1,500~2,000	収穫前日まで	3回以内
ショウチノスケフロアブル	U13+9	2,000	収穫前日まで	2回以内
ハーモメイト水溶剤	NC	800~1,000	収穫前日まで	—
パレード20フロアブル	7	2,000~4,000	収穫前日まで	3回以内
パンチョ TF 顆粒水和剤	U6+3	2,000	収穫前日まで	2回以内
フルピカフロアブル	9	2,000~3,000	収穫前日まで	4回以内
ベルコートフロアブル	M7	1,000	収穫前日まで	4回以内
ポリオキシシン AL 水溶剤	19	1,000~2,000	収穫3日前まで	5回以内
ポリベリン水和剤	M7+19	1,000~2,000	収穫前日まで	4回以内

※1 FRACコード：殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 名称が異なる薬剤でも、同じ有効成分が含まれることがある。そのため、製品ラベル等を十分に確認し、含有する有効成分の種類ごとの総使用回数も使用基準を超えないようにすること。

注：農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### Ⅲ 参考資料

#### ○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬，果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.08	
	ばか苗病	発病株率(%)	0.06	0.05	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネヒメハモグリバエ	被害度	0.69	0.26	0.43	
	イネミズゾウムシ	被害度	10.56	7.88	10.05	
	イネゾウムシ	被害度	3.46	1.70	2.26	
	イネドロオウムシ	被害度	0.81	3.61	1.07	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	2.13	0.84	4.06	
		1㎡当たり個体数	0.25	0.19	0.70	
		発生ほ場率(%)	14.71	12.99	22.54	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.15	0.09	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫数	0.01	0.01	0.06	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.01	0.01	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.20	0.45	0.06	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.01	0.01	0.00	
コバネイナゴ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.04	0.04	0.09		
サツマイモ (印旛，香取)	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.20	0.32	0.40	
スイカ (山武，印旛)	うどんこ病	発病葉率(%)	26.60	0.24	0.60	
		発病株率(%)	40.80	0.44	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	10.40	3.66	1.20	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	4.60	3.86	5.00	
サトイモ (印旛，香取，君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	23.40	35.16	22.51	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	18.73	10.47	14.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.65	1.25	0.49	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.23	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.03	0.06	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.08	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	7.28	2.49	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.12	0.12	0.08	
	かいよう病	発病度	0.16	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	6.32	6.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.20	1.71	0.40	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	2.00	0.51	1.80	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.00	3.24	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.50	1.98	5.25	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.25	0.58	0.00	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			今年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	23.7	32.0	48.3	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.0	0.1	0.0	
	フタオビコヤガ	〃	0.3	0.1	0.3	
	イネヨトウ	〃	14.3	5.5	9.7	
	ニカメイガ	〃	0.3	0.9	1.0	
	イネクロカメムシ	〃	25.0	22.5	39.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	0.3	1.0	0.0	
アカスジカスミカメ	〃	15.0	14.6	59.7		
(果樹カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	0.0	3.2	2.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.4	1.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	0.0	3.4	0.7	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	5.7	11.6	5.0	
	ドウガネブイブイ	〃	0.0	0.1	0.0	
	オオクロコガネ	〃	0.3	0.2	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	1.5	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.0	1.6	2.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	7.0	15.8	49.0	
	カメムシ類	〃	8.0	18.9	51.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	0.2	0.5	0.2	頭/日
	ヒメコガネ	印旛, 香取	0.3	0.0	0.0	
	コナガ	海匠	11.2	5.7	4.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	5.6	1.6	1.4	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.4	0.1	0.1	
	オオタバコガ	県内全域	0.6	0.9	0.6	
	タバコガ	県内全域	0.3	0.2	0.2	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾, 印旛	0.7	0.5	0.6	
	モモシンクイガ	東葛飾, 印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾, 印旛	0.7	0.5	0.6	
	チャハマキ	東葛飾, 印旛	1.0	0.6	0.4	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾, 印旛	1.3	1.7	1.2	
	ハマキムシ類	東葛飾, 印旛	2.3	2.3	1.5	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.6	5.4	3.4	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.6	0.5	
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.4	0.2	
	カメムシ類	〃	0.7	6.4	4.1	
	マルホシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.1	1.0	1.2	

\* 種類別の単位の違いに注意

## ○気象予報

6月10日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

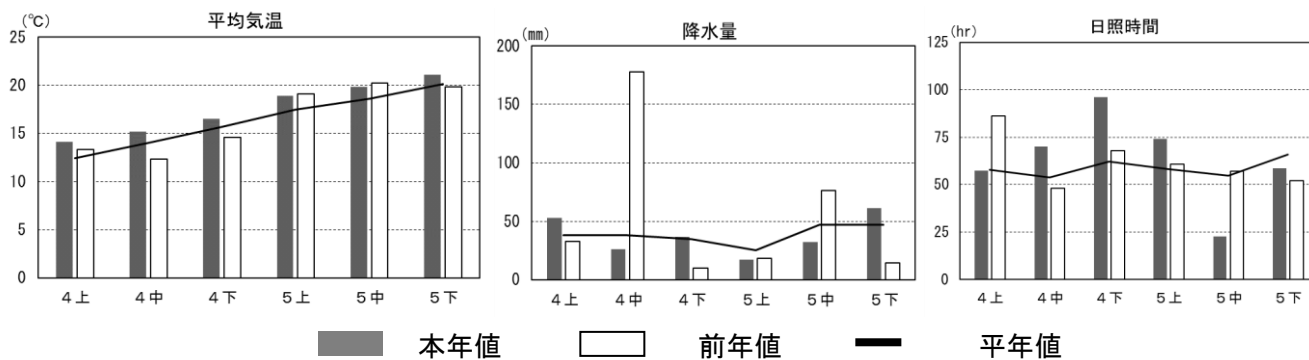
出典：気象庁ホームページ

([https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html))

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月15日～7月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.7	21.6	23.2
降水量(mm)	158.9	165.3	220.2
日照時間(hr)	121.9	130.7	129.2



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は7月14日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)